

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 606 号

1971.6.8 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

「隔りを取り除こう」

出席報告

| | | |
|-------|-------|--------|
| 本日の出席 | 会 員 数 | 62名 |
| | 出 席 数 | 49名 |
| | 出 席 率 | 79.03% |

欠 席 者 阿宗君、阿部(公)君、安藤君
長谷川(文)君、飯白君、金野君、
佐藤(伊)君、佐藤(忠)君、
新穂君、笹原君、篠原君、津田君、
藪田君

| | | |
|-------|-------|--------|
| 前回の出席 | 前回出席率 | 83.87% |
| | 修正出席数 | 57名 |
| | 確定出席率 | 91.94% |

メークアップ 新穂君一酒田RC
長谷川(文)君、嶺岸君、富樫君一鶴岡西RC

ビジター 高梨二郎君、佐藤孝二郎君、岡本浩君一余目RC
半田茂弥君一鶴岡西RC

会長報告

今日は、余目ロータリークラブの次期会長になられる高梨さんがおいでになりましたので、ご挨拶をいただきたいと存じます。

次に恰度12年以前の昭和34年6月9日鶴岡ロータリークラブが発足し、第1回の会合があった筈で、今日はその記念すべき日に当たります。丸12年を迎えるにいたしましたので、どなたかチャーターメンバーの方からの思い出話などいただければ有難いと存じます。

此度渡前にKKスタンレー鶴岡製作所藤島工場が建設され、その竣工式が2日に挙行されました。小型電球をつくる工場とのことです。たまたま親会社のスタンレー電気の常務をやっておられる秦野工場長の畠中重門さんが当クラブにミークされたのですが、例会の時間に間に合わずにバナーをおいて行かれました。

それからバストガバナーの穴沢さんから、シンガポールのバナーが送られてきました。穴沢さんがシンガポールにお出のとき、携えて行ったバナーと交換されたものと思います。この2つを回覧いたします。

それから東京ロータリークラブが出来てから50年を経て、それで50年の歩みという冊子をクラブ宛に贈ってまいりましたので回覧いたします。

社会奉仕委員会に鶴岡駅のタクシー乗場のテントを張替していただきましたのでご報告いたします。

余目RC高梨次期会長の挨拶

昨年5月当クラブの張先生の御配慮により余目ロータリークラブが発足いたしました。

その間、張先生はもとより、小花先生、嶺岸先生、安藤先生等からよく御指導をいただき成長し、去る5月5日に認証状の伝達式が滞りなく完了いたしました。このことに関しお礼の言葉を申し上げたいと存じ、私達3名が参った次第であります。

認証状伝達式が終了したとはいいながら、東西もわからないような余目ロータリークラブの現状でありますので、今後とも引き続き御指導下さいますようお願いを申し上げます。誠に簡単で失礼に存じますが、心からなる御礼の御挨拶を申し上げます。

「オーストラリア旅行記」 嶺岸光吉君

シドニーでのロータリー国際大会に参加して来ましたが、ロータリーのことについては諸先生方にお願ひし、オーストラリアでの私の見て感じたことだけを申し上げます。

張先生の御家族と一緒に5月11日午後2時50分羽田を出発し、香港、マニラ経由でシドニーに着きました。その飛行時間約15時間、シドニーに着いたのが朝の7時前でした。

途中機中で唯今赤道を通過致しますとアナウンスがありました。気持のせい機中が温かくなったような感じがいたしました。通過記念に赤い色紙に黒字で赤道と書いたものを全員にくれました。

オーストラリアの国土は、日本の約21倍の広さで、人口は僅か1,200万人、気候は日本の11月末頃の気候で、私達が行った頃は摂氏18度位、ススキや菊、ダリア、アジサイ等秋夏一緒に咲いたような色とりどりの花が咲いていました。果物等も日本と同じで、こちらの柿と枝豆だけがないそうです。

シドニーを9時に出発してメルボルンまで約1時間、空港には当クラブを訪問したことのあるストウウェルRCのリンゼ・ブラウンさんと、妹が空港まで出向えてくれましたがあいにく雨模様で肌寒く感じました。メルボルンの人口は211万で、午前中はリンゼ・ブラウンさんの案内で市内を見学いたしました。

この町は非常に静かな、そうして優雅な自然の景勝に人工を加えた美しい町でした。妹の話では、オーストラリアでの交通事故で死

亡するのが、人口の割合からして世界一死亡率が高いということでした。警察に事故を知らせても、死亡しなければ警察が来ないということでした。普通の事故なら相方が自動車屋と保険会社に行つて解決するとの事でした。これは、道路が広いことと、自動車の数も日本と違い、車も少ないせいかスピードのだしすぎだと思いました。

それから、オーストラリアでは、道路工事等の場合、この工事は市民の税金で工事中という標示がしてありまして、日本でもこういうふうにやったらなあーと思いました。向こうのサラリーマンで給料の低い人は国営の住宅を安く貸してくれるそうです。3部屋のバス・トイレ付でだれでも借りられるとのことでした。日本のように住宅難ではないように感じました。又、税金等はその人の収入の1割が税金にとられるそうです。

昼メルボルンで昼食を食べ、自動車で3時間半、ストウウェルに行きました。ストウウェルは人口僅か6千人の小さな町で、このロータリアンの数は57名程で、人口からみると非常にロータリアンの数が多いと思いました。

リンゼ・ブラウンさんの家に3日間お世話になりましたが、地元新聞社の記者やカメラマンまで同行し、13日の日は牧場等案内してくれました。そこの牧場主のゴッドマンという家に行きましたが、ここの家で御馳走になり、主人にお宅の屋敷はどの位の坪数ですかとたずねたら、夕方までに返事をすることでした。オーストラリアでは土地の少ない人で5千エーカーから、1万5千エーカー(1エーカー4反歩少々)とのことですが、1万5千エーカーといえは6千町歩位のことで如何に土地が広いかを思わせられました。

ここの牧草はルサンという草で、4寸位の日本の三つ葉に似た草で、日本等にも輸出しているそうです。今年は羊毛の値下りて農作物等もあまりよくないとのことでしたし、特に羊毛等は量よりも質の向上に力を入れているとのことでした。

夜はリンゼ宅で、パーベキューでロータリーの家族会を催してくれたし、私は英語も出来ないのに皿一杯御馳走を盛り、人目をさけて1人暗い所で食べ、人から話をかけられるのがなよりも苦痛でした。

翌14日はシャンペン工場等を見学し、リン

せさんの工場等も見学して参りました。

リンゼさんの自家用の飛行機にも乗ってきましたし、向こうの大地主の人は飛行機で自分の山林や牧場、或いは商用等に利用しているのことでした。午後4時から6時まで、町主催のレセプションを開いてくれましたしここでも話が出来ないので早く時間になればと、ただそれだけ思いました。6時からはロータリーの例会で、会員・家族100名程でしたし、点鐘、ソングは日本と違い螢の光で始まり、会長挨拶、各委員会報告、ここで私の失策で、オーストラリアドルで10ドル(1ドル400円)4,000円のスマイルをさせられ、なんか向うの会員が私をじろじろとみるので、これは背の低い日本人もいるんだとみているのかなと私なりに思っております。会長の挨拶やら、委員会の報告やら、私には何が何やらさっぱりわからないので、皆んな食事をとるまで煙草を吸っていたら、嶺岸というので、はっとしたら妹が兄さん煙草を吸ったというので、スマイルだというのでここで高い罰金を払って参りました。これは向うの規則のようでした。

このクラブでは、家族会の場合、会員は必ずおくさんを連れてくるか、或いは女の子を連れてくるが、女の友達でもよし、とにかく必ず女同伴でくるのが規則になっているということでした。連れてこない会員が3人程いました、その人達は罰則として人の食べおえた皿のあとかたづけなどさせられておりました。張先生のスライド等をみながら夜おそくまで非常にごやかな、多くの人々の友情と歓迎に深い感銘をうけて参りました

翌日、オーストラリアの主都キャンベラに行き、ここの人口は10万人程で、各国の大使館や官庁街等見て参りましたが、緑の芝生や黄色のポプラ、美しい田園都市の景観を呈していたようです。戦争記念館を見て参りましたが、ここに日本軍の特殊潜航艇が無残な姿で陳列されておりました。艦長は山形県人ということでしたが、私達日本人には何んか心を強くうたれるような思いがいたしました。

キャンベラからオーストラリアの最大の都市シドニーに行きましたが、ここは人口244万人港町として栄えた町でここに有名な、ハーバード、ブリッジ、ポート・ジャクソン湾にかけられた世界最大の橋で、全長503m、水面よりの高さが51.9m、2条の鉄道と8条の車

道両側が歩道になっており、2万トン級の船舶が往來出来るそうです。

向こうでは毎日肉食で、5日間程酒を飲んでないのでコップで一杯のみたいと思っていたら幸いシドニーで、日本人経営の「名古屋」という日本料理店で久びさに日本酒をいただきました。まぐろの刺身、すき焼、このときだけは我が家に帰ったような感じがいたしました。

シドニーでの大会で昼食を食べていたら、向こうの若い男がよって来て、貴方達日本人がオーストラリアについてのアンケートをとっていたということでした。この人は日本に1年半程留学したという人で、非常に日本語が上手でした。私達この度シドニーの大会にやってきましたが、私は英語を話せないし、読むことも出来ない。たとえば一つの例として便所がどこにあののか不便を感じたし、英語のわからないものでもすぐわかるように標示してもらいたいし、これは私だけでなく、英語のわからない日本人も観光に来ると思うし、楽しい旅行の出来るようにしてもらいたいと話したら、これは大変良いことを聞いたとよろこんでいました。

翌日朝、張先生が会場にアルバムを展示したので、それを会場までとりに行ったら、早速会場前等に墨で大きく男・女と標示してありました。私が云ったのか、或は別の人と同じような事を云ったのか、標示してくれましたし、大変感じがよかったです。

オーストラリアは今日本に対し、積極的に期待をもっていたし又、友好的で今後日本人もどんどんオーストラリアに行くことも遠くはないと思うし、素晴らしくよい国だと思いました。シンガポールでは、日本に対して非常に期待をもっていたようでした。5ヶ年計画で開発を進めていたようすし、日本の一流会社(ブリヂストン・日産自動車等)そくそくと建設されておりました。工場地帯のそばには、10万平方メートルの敷地に日本庭園を作る計画で、今着々と進められ、完成も間近ということでした。この費用は、いくらかかっても金を惜しまないということでした。この指揮・監督をとっている人は中根金作教授で、日本万博の日本庭園を協同設計された方だそうです。

海外旅行のご報告

小花盛雄君

私は9日の晩に出発して、今月3日の朝に帰って参りました。しばらくクラブの方を留守にしたり、仕事の方も代った人によってもらったりして、市民の皆様は大変御迷惑をおかけしたと思ってお詫び申し上げます。

通りました道筋は、たまたま私の出発の前日、東京神田ロータリークラブのグループの30人の方々と同じコースを辿りました。その方々とは香港を観光しておられた2日目に追いついて、香港から御一緒いたしました。

最初にインドネシアに行き、バリ島に一時泊し、それから戻ってきて、インドネシアの首都のジャカルタに立寄り、更にシドニーはパスしてすぐにキャンベラに行きました。そこで先刻嶺岸さんのお話にあった博物館の側にある特殊潜航艇のところで、同じ想いをしてきたのであります。それからメルボルンに出て、その後は御手紙で会長さんに申し上げましたように、ストウエールの会員の方々のお出迎をいただき例會に出てまいりました。

それから戻って、シドニーの世界大会に出席いたしました。大会は前夜祭と第1日目の大会に出ました。会長さんの非常に感銘深いスピーチがあり印象的でした。メモにしたのですが、今日は持参しておらず、機会があったら纏めて御話したいと存じます。

その後知名のスコットさんなどのスピーチがありました。それを聴くことが出来ずに次のスケジュールに移りました。それからニュージーランドに行き、タヒチに行き、また戻ってシドニーから南アフリカのヨハネスブルグにまいり、ヨハネスブルグから南アフリカの首都のプレトリアに行きました。それから北上してケニアのナイロビ更に北上してエチオピアのアジスアベバに行き、それから印度に渡りました。

印度ではボンベイそれから待望のマドラスに行き、そしてセロンを回って帰るつもりでしたが国情不安のため、ビザがとれず行けませんでした。現地できいてみますと、暴動がおきていて、特に私の家に1年間居たセロンの学生のお家であるキャンデーという小さい街では、とりわけ暴動が烈しく、外人さえも巻き添え食って多数の方が殺されたとのことでした。実は、その青年に会いたいと念願しており、お寄りするつもりでしたが、寄らずにしてよかったと思っております。

カルカッタに出るにしても、東パキスタンの国情不安のため出れず、ニューデリーまで戻ってニューデリーから真直ぐ羽田まで参りました。

その間ロータリーの方を少しでも勉強しようと思って、先程ご報告のあったストウエールの例會に出て、シドニーに居るうちにエッペンニュウというところの例會に出ました。エッペンニュウのことは前に手紙で申し上げましたが、バナーをいただいてきたのでご紹介いたします。それから南アフリカに行つてからは、ヨハネスブルグの親クラブの例會がホテルであったので、そこに出て会報バナーをいただいてきました。それからマドラスでも恰度例會にあつることが出来ました。ここでは前会長が353地区からお送りした医療機械の受取人であったので、ここで一言ご挨拶をさせられることになり、英語のスピーチを行いました。

会員の方が追いかけてきて、会報にのせるから原稿を呉れとのことで、おいて参りました。このように立派な会報を発行しております(現物をお目につけた)ザライトハウス…ここに燈台で出ております。光を与え広く照らすという意味のようです。前会長が昨年の9月15日の会報をわざわざ持ってきてくれました。こちらから医療機械を贈ったときに、あそこの日本から行つた総領事と、このロータリーの会長、あそこの總裁の3人の方が贈られた品物を前にして写っており、また記事を前にした会報が出ておりました。経路はそんな風で、アフリカ、インド、インドネシア等の細かい訪問の資料などこれら取纏めようと思っておりますし、スライドなども出来てきましたら、皆さんにご覧に入れながらお話し申し上げたいと存じます。

親睦委員会行事報告 五十嵐伊市郎君

来る19日16時30分ゴルフコンペ 荘内地区ロータリークラブ実施 会費 1,000円

幹事報告

会報到着 東京RC、石巻東RC、村山RC

記事訂正

第603号の会報で、阿部襄先生のスピーチ「盲啞学校生徒のレクリエーション行事に参加して」のうち盲啞は盲の誤(盲学校には視力薄弱児が多い)ですので、お詫して訂正いたします。